



13

相模女子大学ユニセフ委員会

みんなでドッジボールをして世界の子どもを救おう！

報告者 相模女子大学ユニセフ委員会 高山 文さん

1. ポイント

これまで3年間大学で学習してきた中で、私たちは子どもが安全に生活できる環境や、教育を受ける権利は日本の子どもだけではなく、世界の子どもたちに共通していることだと感じました。しかし、現実の世界にはエイズ、貧困、人身売買、戦争・紛争などが起こっています。また、5歳未満の子どもが一年間に810万人も亡くなっていることを知りました。そうした現実を前にして、「自分たちに何かできることはできないだろうか」と考えました。そこで、私たちは相模女子大学にユニセフ委員会を立ち上げました。ユニセフ委員会の活動に当たっては、

- 私たちが学習したことや、感じたことを同世代の人たちに伝えたい。
- 同世代の人にユニセフ活動を知ってもらいたい、募金に関心を持ってもらいたい。
- 同世代の人たちに自分たちの知らない地球上の貧困層の子どもたちの現状を知つてもらいたい。

という3つの目標を掲げ、7人で活動を行っています。今回、こうした活動の一環として、他の他の大学の学生にも呼びかけ「ドッジボール大会」を計画、実施することにしました。



ユニセフ委員会のメンバー

2. ドッジボール大会の開催

ドッジボール大会のスローガンである「みんなでドッジボールをして世界の子どもを救おう！」をもとに、大会の参加費を払ってみんなでドッジボールをすることで、その参加費がユニセフ募金になります。すなわち、学生同士の交流が募金につながる大会です。

開催に当たっては、約半年前から企画を立てましたが準備をする余裕がなく、また、「チームが集まってくれるだろうか」「この大会ができるだろうか」など想像以上に大変で不安でした。しかし、多くの大学からたくさんの参加者が集まり、事故やけがもなく終えることができました。また、普段かかわることのない人たちが楽しく話をしたり、写真を撮ったりする姿が印象的でした。

開催要項	
日 時	12月19日(日) 10:00-17:00
場 所	相模原総合体育館
対 象	18歳以上の学生
参 加 費	参加費(500円) × 人数 - 体育館費用
備 考	・8名以上12名以下の男女別のチームを1チームとします。



大会を終えた仲間たちは、達成感を味わいました。

○自分たちで何かを企画することが初めてだったので、企画することの大変さがわかりました。準備をしている時は、「もう企画するのはいやだ」と思いましたが、当日私たちが企画したドッジボール大会を通して参加してくださった方々がとても楽しそうにしているのを見たら、「また企画したいな」と思うようになりました。人の笑顔は全てをプラスの方向に変えてくれるのだと感じました。

○この仲間の強い結束を感じた活動でした。是非、後輩たちにも続いていってほしいと思います。

○自分たちで始めて「ドッジボール大会」を企画をして企画する大変さを知ることができた。しかし、参加人数もたくさん集められ、アンケートには「楽しかった」「またお願いします」と書かれてあり、とても嬉しかった。



ドッジボール大会前の集合



ドッジボール大会の様子

また、ユニセフ活動やユニセフ募金についても、多くの方に知っていただく機会となったという感想や、今後もユニセフ委員会を後輩たちに伝えて生きたいという意欲が語られました。

○今回の活動で、多くの人にユニセフの活動を知ってもらい、募金活動などに参加してくれる人が増えてくれればいいなと思いました。また、募金によって子どもたちが救わればいいなと願います。これからも積極的に募金活動に参加したり、ユニセフの活動に注目していきたいと思います。

○今日は、参加されたみなさんに楽しんでもらい、私たちもやりがいを感じることができました。また、ユニセフ募金活動をすることができ、みんなでひとつのことに向かって協力し合う素晴らしいしさを感じることができました。

3. まとめ

今回の大会企画で、たくさんの学生に「私たちが世界の子どもを助ける手助けをしている」ということに喜びを感じているという感想をもらいました。当初掲げていた目標の「募金について興味をもってもらいたい」ということの第一歩になったと実感しています。また、私たち自身も「こんな大きな大会を開けたということ」に達成感を感じることができました。様々な方にご協力をいただいたことに感謝しております。今回の大会開催は苦労とともに学ぶことも多くありました。世界の子どもたちにとって小さな力ですが、子どもたちを救いたいという学生の思いの詰まった大きな募金となりました。